

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 17 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2014

課題番号：23531115

研究課題名(和文) 大学院の組織と運営に関する日米比較

研究課題名(英文) Comparative Study on Organization for Graduate Education in the US and Japan

## 研究代表者

阿曾沼 明裕 (Asonuma, Akihiro)

名古屋大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：80261759

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、米国の研究大学を主な対象として、研究学位と専門職学位の違いを基本的な視座として、日本の大学院との比較を踏まえながら、大学院がどのように組織化され、運営されているのかを分析した。その結果、大学院教育に関わる組織の基本的な構成、グラジュエート・スクールとプロフェッショナル・スクールという二元モデルの限定性、全学の大学院管理のパターン、カレッジやスクールの分野ごとに異なる学位プログラムの構造とその運営パターンの多様性、カレッジやスクールの分野ごとに異なる大学院戦略の多様性を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study examined how graduate education is organized and operated at American research universities compared with Japanese universities, especially from the perspective of differences between research degree program and professional degree program. It has been found that there are three types of how to organize graduate degree programs at institutional level, that organizational and operational styles of graduate programs differently depend a great deal on the program types: 'unifying type' and 'differentiating type' at school or college level, and that schools or colleges adopt some different types of strategies related to graduate programs at the same time.

研究分野：高等教育論

キーワード：研究大学 大学院 組織 米国 日米比較 大学院戦略

### 1. 研究開始当初の背景

知識社会、知識基盤経済のなかで、大学院の果たすべき役割はますます大きくなりつつあり、大学院改革は、日本の高等教育改革の重要な課題のひとつである。日本の大学では、従来大学院は学部の補助的なものとして位置づけられてきたが、工学部を中心に大学院は拡大し、1990年代には人文社会科学系大学院も拡大、さらに大学院重点化の中で一部の国立大学や私立大学で大学院が部局化し、大学院はすでに大学組織の中核組織となっている。また、専門大学院や専門職大学院創設で研究後継者養成から高度専門職養成への転換が一層本格的に取り組みられるようになり、近年では大学教員にならない研究者の養成や、社会における新たなキャリアパスに繋がる博士課程教育など、研究者養成の部分でも変化が進みつつある。こうした大学院教育の多様化に対して組織的な対応が求められていると考えられる。

もちろんこれまでに大学院の組織についての検討はなされ、例えば大学院大学や独立研究科、最近では専門大学院さらには専門職大学院が置かれるなどした。これらは確かに大学院多様化に応じた取り組みには違いないが、新しいタイプの組織の追加で機能分化に対応してきたもので、既存の学部・研究科の中核部分はそのままである。大学院の部局化も、研究費の増額というインセンティブから始まったもので、問題を混乱させこそすれ解決にはなっていない。これらは卓抜な発想がありつつも大学院の組織や運営の背景やメカニズムについてのより本質的な分析に欠ける感がある。むしろ一般の学部・研究科において大学院教育が多様化しつつあるのであり、いや大学院教育に限らず、学士教育、大学院教育、研究活動と一般の学部・研究科での諸活動・諸機能が多様化を強めているのであり、そうした諸機能の多様化に対して如何に組織的な対応がなされるべきかが問われている。これに対して例えば、米国の大学の教育組織(プログラム)から分離された教員組織(デパートメント)の存在は多様化に有効であると考えられ、参考となる。

### 2. 研究の目的

以上のような研究開始当初の背景から、本研究は、大学院の先進国であり、研究学位(Ph.D.)から専門職学位まで大学院教育の多様化が進んでいると考えられる米国の大学院教育の組織的基盤を明らかにし、それによって、将来の日本の大学院の組織や運営の改革への基礎的な知見を得ることを目的とした。米国の大学院の組織や運営の多様なパターンを整理し、さらに日本の大学院の組織や運営との比較をしながら、組織や運営の背後にある原理やメカニズムを明らかにすることとした。

なお、研究者養成と専門職養成という点で

は研究大学が重要な役割を果し、なおかつ研究大学では研究学位と専門職学位という相異なる教育プログラムを同時に提供しているという点で複雑なメカニズムが想定される。従って多様な大学院学位プログラムの提供に組織にどのように対応しているのかという本研究の視点から、おもに研究大学を分析の対象とする。

### 3. 研究の方法

研究の方法は、高等教育機関の組織や運営に関する文献のレビュー、本研究の分析枠組みの構築のための理論的検討、大学院の組織や運営に関わる歴史的な検討、大学院の組織や運営に関わる資料とデータの収集のための事例調査、それらに基づく比較分析と総括からなる。

とくに中核をなすのが研究大学への訪問調査である。本研究は、日本と米国の大学院の組織的基盤を比較分析することを目的とするが、両国は大学院制度が異なるし、比較のための枠組すらない状況である。日本の大学院についてはこれまでの研究からいくらかは予測がつくが、中央集権的に企画が定められていない米国の大学院の組織や運営は多様であり、大学によっても分野によっても、大学のレベルによっても大きく異なるものと思われた。加えて米国の大学院教育についての研究では、日本人からみて特徴的なことも米国人にとって当たり前のことであるために、文献に現れないことも多く、多様性はいまでもなく、基礎的なことからわからないことが多い。このため、大学院教育の運営に関わるキーパーソンである、各カレッジやスクールのディーンや副ディーンに対してインタビューを行った。ディーンや副ディーンは、一般部局であるスクールやカレッジのディーンや副ディーンだけでなく、全学の大学院管理組織であるグラジュエート・スクールのディーンや副ディーンをも対象とした。

こうしてまずは米国の大学院の組織的基盤を明らかにすることからはじめて、大学院教育がどのように組織化され、どのように運営されているのか、様々な組織レベル、様々な分野や領域で比較しながら、その構造的なパターンを整理し、その多様なパターンの背景と要因、その多様性がもたらす利点や問題点、などを探った。多様なパターンを抽出しモデル化し、そこで得られた多様性を分析するための枠組を使いつつ、日本の大学院との比較分析によって米国の大学院の特質を明らかにしつつ、同時に、日本の大学院の組織や運営の構造的な特質と問題を明らかにするという手順をとった。

### 4. 研究成果

以上のような方法で情報や資料の収集を行い、分析をした結果、以下のようないくつかの知見が得られた。主に米国の研究大学の組織的基盤に関する特徴である。

(1)大学院教育の成立の歴史を、専門職養成と研究者養成を対比させ、タテとヨコのという2方向のユニバーシティ化という観点から整理を行った。とくに大学院教育にかかわるデパートメント、グラジュエト・スクール、プロフェッショナル・スクール(特に大学院学位プログラム)の歴史的な形成と展開について整理した。

(2)Ph.D.プログラムを提供するグラジュエト・スクールと、専門職学位プログラムを提供するプロフェッショナル・スクールという二元モデルが限定的なものであることを、文理学、法律、ビジネス、医学、工学、教育のスクールの学位プログラムを具体的に比較することで、明らかにした。

(3)大学院教育の観点から、研究大学を構成する教育研究組織(カレッジ、スクール、ファカルティ、デパートメント、プログラム、ディシプリン、コンセントレーション等)のパターンの整理を行った。

(4)大学院の全学的な管理組織であるグラジュエト・スクールその他の組織に関して整理を行い、大学院教育の全学的な管理のパターンとして、「アンブレラGS型」「文理大学院型」「個別スクール型」があることを明らかにした。

(5)法律、文理学、医学、ビジネス、工学、教育のカレッジやスクール別に、大学院学位プログラムがどのように異なり、どの様に運営されているのかを分析した。とくに学位プログラムに分散型プログラムと統合型プログラムの違いがあることを明らかにし、デパートメントの有無など組織構成の違いを踏まえて、そうした学位プログラムがどのように運営されているのかをパターン化した。また、研究学位プログラムと専門職学位プログラムで運営がどのように異なるのかを分析した。

(6)カレッジやスクールのなかで、学位プログラムとデパートメントがマトリクスを構成していること、そのマトリクスの形態が、法律、文理学、医学、ビジネス、教育のカレッジやスクールでかなり異なることを示し、組織的なマトリクスの多様性を明らかにした。

(7)大学院教育の財政基盤も考慮しながら、法律、文理学、医学、ビジネス、工学、教育のカレッジやスクール別に、どのような大学院戦略(研究経済対応型、専門職経済対応型、研究充実型、人材需要対応型)が採られているのかを明らかにした。

以上の成果は、米国においても必ずしも明らかにされているわけでもなく(当たり前のこととして見過ごされているということはある)米国の事情を理解するのに役立つだけでなく、大学組織の背景にあるメカニズムの一端を明らかにしており、大学院に関する学術的な研究とくに組織や財務に関する研究に大きく貢献するものと思われる。こうした米国大学院の特徴は、日本の大学院と比較

することで得られたものであり、同時に、今後の日本の大学院教育における多様化に対する組織的な対応に貢献し、多様な教育プログラムを成功させるための基礎的な知識となるものと思われる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

阿曾沼明裕、アメリカの大学院の成立プロセス再考( ) 19世紀前半までの助走段階、名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学) 査読無、59(2)、2013年3月、59-72頁

阿曾沼明裕、アメリカの大学院教育の多様性と学位 - 『研究学位と専門職学位』の対比の検討 -、名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学) 査読無、59(1)、2012年9月、29-45頁

〔学会発表〕(計 3件)

阿曾沼明裕、大学院生への経済的支援のメカニズム - 米国研究大学のカレッジ・スクールの経営の視点から -、日本高等教育学会第14回大会、2011年5月28日、名城大学

〔図書〕(計 1件)

『アメリカ研究大学の大学院 多様性の基盤を探る』阿曾沼明裕、名古屋大学出版会、2014年、487頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿曾沼明裕 (Asonuma Akihiro)  
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・  
教授  
研究者番号：80261759

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：